

第5回：全体を集計する

- COUNT, SUM, AVG -

表全体の件数や合計、平均値を計算できるようになる

● 本日のゴール

- ✓ 表全体の件数や合計、平均値を計算できるようになる

● 座学パート

1. 集計関数とは？

複数の行をまとめて1つの値を計算する関数。

- **COUNT**：件数を数える
- **SUM**：合計を計算する
- **AVG**：平均を計算する
- その他：MAX（最大）、MIN（最小）

2. 基本構文

-- 件数を数える

```
SELECT COUNT(*) FROM 'data/sales.csv';
```

-- 合計を計算

```
SELECT SUM(quantity) FROM 'data/sales.csv';
```

-- 平均を計算

```
SELECT AVG(price) FROM 'data/products.csv';
```

3. ポイント

- `COUNT(*)` : 全行数を数える (NULLも含む)
- `COUNT(列名)` : その列でNULL以外の値を数える
- SUMやAVGは数値列にのみ使用可能
- 結果は1行だけ返ってくる

4. 集計の利点

- 計算結果がすぐに確認できる
- 複数の集計を同時に実行して比較できる
- エラーがあればすぐに分かる

● 演習パート

演習1：sales.csvの売上データは全部で何件？

```
SELECT COUNT(*) FROM 'data/sales.csv';
```

結果：15件

応用：特定条件の件数を数える

-- C001さんの購入回数は？

```
SELECT COUNT(*) FROM 'data/sales.csv'  
WHERE customer_id = 'C001';
```


演習2：売上数量の合計を計算

```
SELECT SUM(quantity) FROM 'data/sales.csv';
```

結果を確認：

- 全部で何個売れた？
- 1件あたり平均何個？（合計÷件数）

演習3：商品の平均価格を計算

```
SELECT AVG(price) FROM 'data/products.csv';
```

さらに詳しく

-- 最高価格、最低価格、平均価格を一度に

SELECT

MAX(price) **AS** 最高価格,

MIN(price) **AS** 最低価格,

AVG(price) **AS** 平均価格

FROM 'data/products.csv';

● 応用練習

1. 複数の集計を同時に実行

```
SELECT
    COUNT(*) AS 売上件数,
    SUM(quantity) AS 総販売数,
    AVG(quantity) AS 平均販売数,
    MAX(quantity) AS 最大販売数,
    MIN(quantity) AS 最小販売数
FROM 'data/sales.csv';
```

2. 条件付き集計

-- 10個以上の大量購入の統計

```
SELECT  
    COUNT(*) AS 大量購入回数,  
    SUM(quantity) AS 大量購入総数,  
    AVG(quantity) AS 大量購入平均  
FROM 'data/sales.csv'  
WHERE quantity >= 10;
```

3. 計算式と組み合わせ

-- 仮想的な売上金額の計算（商品価格を10,000円と仮定）

SELECT

SUM(quantity) **AS** 総販売数,

SUM(quantity) * 10000 **AS** 推定売上金額

FROM 'data/sales.csv';

● 実践的な使い方

ケース1：在庫管理

```
-- 商品マスタの統計情報
SELECT
    COUNT(*) AS 商品数,
    AVG(price) AS 平均価格,
    SUM(price) AS 全商品合計価格
FROM 'data/products.csv'
WHERE category = '電子機器';
```

ケース2：売上分析

-- 期間を絞った売上分析

SELECT

COUNT(*) **AS** 取引回数,

SUM(quantity) **AS** 総販売数

FROM 'data/sales.csv'

WHERE order_date >= '2024-01-20';

ケース3：顧客分析

-- アクティブ顧客数（購入履歴のある顧客）

```
SELECT COUNT(DISTINCT customer_id) AS アクティブ顧客数  
FROM 'data/sales.csv';
```

● 効果的な分析

段階的な分析アプローチ

1. まず全体を把握

```
SELECT COUNT(*) AS 全データ数 FROM 'data/sales.csv';
```

2. 条件を加えて絞り込み

```
SELECT COUNT(*) AS 特定顧客数  
FROM 'data/sales.csv'  
WHERE customer_id = 'C001';
```

3. 割合を計算

```
-- C001さんの購入割合
SELECT
    COUNT(CASE WHEN customer_id = 'C001' THEN 1 END) AS C001の購入回数,
    COUNT(*) AS 全購入回数,
    ROUND(COUNT(CASE WHEN customer_id = 'C001' THEN 1 END) * 100.0 / COUNT(*), 2) AS 購入割合
FROM 'data/sales.csv';
```

● 集計関数の使い分け

関数	用途	例
COUNT(*)	全行数を数える	売上件数、顧客数
COUNT(列)	NULL以外を数える	有効データ数
SUM	合計値	売上総額、在庫総数
AVG	平均値	平均単価、平均購入数
MAX	最大値	最高価格、最大購入数
MIN	最小値	最低価格、最小購入数

● 注意点と活用Tips

NULL値の扱い

- COUNT(*)はNULLも数える
- COUNT(列名)はNULLを除外
- SUM、AVGもNULLを除外して計算






0件の場合

```
-- 該当データが0件の場合
SELECT COUNT(*) FROM 'data/sales.csv'
WHERE customer_id = 'C999'; -- 存在しない顧客
-- 結果：0
```

```
SELECT SUM(quantity) FROM 'data/sales.csv'
WHERE customer_id = 'C999';
-- 結果：NULL (0ではない！)
```

● 本日のまとめ

今日学んだこと：

-  `COUNT(*)` で件数を数える
-  `SUM(列名)` で合計を計算
-  `AVG(列名)` で平均を計算
-  `MAX` で最大値、`MIN` で最小値
-  `WHERE` 句と組み合わせて条件付き集計も可能

よく使うパターン

-- 基本的な統計情報

SELECT

COUNT(*) **AS** 件数,
SUM(数値列) **AS** 合計,
AVG(数値列) **AS** 平均,
MAX(数値列) **AS** 最大,
MIN(数値列) **AS** 最小

FROM テーブル;

-- 条件付き集計

SELECT 集計関数

FROM テーブル

WHERE 条件;

● 次回予告

第6回では、GROUP BYを使って「顧客ごと」「商品ごと」といったグループ単位での集計を学びます。

より実践的な分析ができるようになります！

● 追加演習問題

問題1：基本的な集計関数

以下の集計を実行してください：

- 1. products.csvの最高価格を表示
- あなたの答えをここに書いてください

- 2. sales.csvの最小購入数量を表示
- あなたの答えをここに書いてください

- 3. customers.csvの登録顧客数をカウント
- あなたの答えをここに書いてください

問題2：条件付き集計

WHERE句と組み合わせた集計：

-- 1. 電子機器カテゴリの商品数と平均価格

SELECT

COUNT(*) AS 商品数,

AVG(____) AS 平均価格

FROM 'data/products.csv'

WHERE ____ = '____';

-- 2. 2024年1月25日以降の売上件数と合計数量

-- あなたの答えをここに書いてください

-- 3. 顧客C002の購入回数と平均購入数量

-- あなたの答えをここに書いてください

問題3：複数の集計を組み合わせ

一つのクエリで複数の情報を取得：

```
-- products.csvの統計情報を一度に表示
```

```
SELECT
```

```
    ____ AS 商品総数,  
    ____ AS 最高価格,  
    ____ AS 最低価格,  
    ____ AS 平均価格,  
    ____ AS 価格の合計
```

```
FROM 'data/products.csv';
```

問題4：実務シナリオ

ビジネスで使える集計：

- 1. 日次売上サマリー（特定日の売上統計）
- 2024年1月20日の売上について以下を集計：
 - - 取引件数
 - - 販売商品の種類数（ヒント：DISTINCT）
 - - 総販売数量
- あなたの答えをここに書いてください

- 2. 在庫価値の計算
- 全商品の合計価格（在庫価値と仮定）
- あなたの答えをここに書いてください

チャレンジ問題

- sales.csvから以下を計算してください：
- 1. 全取引の平均購入数量（小数点以下1桁）
- 2. 購入数量が平均以上の取引件数
- ヒント：サブクエリを使わずに、2回に分けて実行



実践問題：売上分析レポート

- 以下の分析を行ってください：
- 1. 期間売上分析（1月15日～1月20日）
 - - 期間中の総売上件数
 - - 期間中の総販売数量
 - - 1日あたりの平均取引件数
- 2. 顧客別の購入分析（特定顧客C001）
 - - 総購入回数
 - - 総購入数量
 - - 1回あたりの平均購入数量

デバッグ練習

以下のクエリの問題点を見つけて修正：

-- エラー1：集計関数の使い方

```
SELECT customer_id, COUNT(*)  
FROM 'data/sales.csv';
```

-- エラー2：文字列にSUMを使用

```
SELECT SUM(customer_name)  
FROM 'data/customers.csv';
```

-- エラー3：集計関数とWHERE句の組み合わせ

```
SELECT COUNT(*)  
FROM 'data/sales.csv'  
WHERE COUNT(*) > 5;
```




応用：NULL値の扱い

-- NULL値がある場合の集計の違いを理解：

-- 1. COUNT(*)とCOUNT(列名)の違い

SELECT

COUNT(*) **AS** 全行数,

COUNT(customer_id) **AS** 顧客ID数,

COUNT(**DISTINCT** customer_id) **AS** ユニーク顧客数

FROM 'data/sales.csv';

-- 2. NULLを0として扱う (COALESCE関数)

-- 仮にNULL値があった場合の対処法

SELECT

SUM(COALESCE(quantity, 0)) **AS** 合計数量

FROM 'data/sales.csv';

総合演習

- sales.csv、products.csv、customers.csvそれぞれについて
- 以下の「データヘルスチェック」クエリを作成：
 - 1. レコード数
 - 2. 主要な数値列の最小・最大・平均値
 - 3. 異常値の可能性（例：価格が0の商品、数量が極端に多い売上など）

● FAQ

Q: COUNT(1)とCOUNT(*)の違いは？

A: 実質的に同じです。COUNT(*)の方が一般的。

Q: 小数点以下を丸めたい

A: ROUND関数を使います。 `ROUND(AVG(price), 2)` で小数点以下2桁。

Q: 文字列は集計できる？

A: COUNTは可能ですが、SUMやAVGは数値列のみです。